

明石工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	建築工学実験
科目基礎情報						
科目番号	0077		科目区分		専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科	建築学科		対象学年		4	
開設期	通年		週時間数		2	
教科書/教材	日本建築学会:「建築材料実験用教材」、日本建築学会野口貴文ほか『ベーシック建築材料』彰国社					
担当教員	田坂 誠一,角野 嘉則					
到達目標						
(1)コンクリートや鋼材の機械的性質に関する材料実験の目的や方法が理解できる。 (2)鉄筋コンクリート梁や鉄骨梁の力学的性質に関する構造実験の目的や方法が理解できる。 (3)実験の目的・方法・結果等を踏まえてレポートの作成ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	材料実験の目的や方法を十分に理解している。		材料実験の目的や方法を理解している。		材料実験の目的や方法を理解していない。	
評価項目2	構造実験の目的や方法を十分に理解している。		構造実験の目的や方法を理解している。		構造実験の目的や方法を理解していない。	
評価項目3	実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を十分に満足している。		実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を満足している。		実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を満足していない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (G)						
教育方法等						
概要	主要構造材料としてのコンクリートや鋼材（鉄筋）の材料的・構造的特性を実験を通して学ぶ。骨材の材料実験、コンクリートの調査設計、強度試験、鉄筋コンクリート梁の載荷実験、H型鋼の載荷実験などを行う。また、建築の材料・設計・施工・測量等に関するビデオ鑑賞により理解を深める。複数教員担当方式（田坂60時間、角野60時間）					
授業の進め方・方法	実験毎に目的、方法、結果のまとめ等について説明する。実験はグループで行い、グループ毎にレポートを作成する。提出されたレポートはルーブリックに基づく相互評価を行う。また、ビデオ鑑賞を行い、レポートを作成する。					
注意点	講義と実験を関連づけて理解すること。定められた試験方法を的確に行なうこと。実験データは各自で記録・保管し、レポートに反映させること。授業には電卓を持参すること。安全に留意し、実験に相応しい服装や態度であること。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	概要説明 実験計画・日程などについて説明する。		実験の目的や意義、及び安全管理について理解できる。	
		2週	実験1(1) 実験1(砂及び砂利の単位容積質量試験)説明		単位容積質量試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。	
		3週	実験1(2) 実験1(前半)、ビデオ鑑賞(後半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		4週	実験1(3) 実験1(後半)、ビデオ鑑賞(前半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		5週	実験2(1) 実験2(砂及び砂利のふるい分け試験)説明		骨材のふるい分け試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。	
		6週	実験2(2) 実験2(前半)、ビデオ鑑賞(後半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		7週	実験2(3) 実験2(後半)、ビデオ鑑賞(前半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
	8週	中間試験				
	2ndQ	9週	実験3(1) 実験3(コンクリートのスランブ試験)説明		コンクリートのスランブ試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。	
		10週	実験3(2) 実験3(前半)、ビデオ鑑賞(後半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		11週	実験3(3) 実験3(後半)、ビデオ鑑賞(前半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		12週	調査設計 コンクリートの調査設計について説明する。		JASS5に基づく調査設計の方法が理解できる。	
		13週	実験4(1) 実験4(コンクリートの圧縮強度試験)説明		コンクリートの圧縮強度試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。	
		14週	実験4(2) 実験4(前半)、ビデオ鑑賞(後半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		15週	実験4(3) 実験4(後半)、ビデオ鑑賞(前半)		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		16週	期末試験			
後期	3rdQ	1週	実験5(1) 実験5(鉄筋コンクリート梁の載荷実験)説明		鉄筋コンクリート梁の載荷実験の目的、方法、結果の表示が理解できる。	
		2週	実験5(2) 実験5(前半)、ビデオ鑑賞(後半) 試験体の製作		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		3週	実験5(3) 実験5(後半)、ビデオ鑑賞(前半) 試験体の製作		グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。	
		4週	載荷実験レポートの説明 実験レポートの内容について説明する。		実験結果の理論的な予測や結果の取り纏め方法について理解できる。	

		5週	実験5(4) 実験5(前半)、ビデオ鑑賞(後半) 载荷実験	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		6週	実験5(5) 実験5(後半)、ビデオ鑑賞(前半) 载荷実験	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		7週	実験のまとめ 実験データの取り纏め。	実験結果の総括とレポート作成ができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	実験6(1) 実験6(鉄筋引張試験)説明	鉄筋引張試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。
		10週	実験6(2) 実験6(後半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		11週	実験6(3) 実験6(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		12週	実験7(1) 実験7(H型鋼の曲げ実験)説明	H型鋼の曲げ実験の目的、方法、結果の表示が理解できる。
		13週	実験7(2) 実験7(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		14週	実験7(3) 実験7(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		15週	実験のまとめ 実験データの取り纏め。	エクセルを用いた実験結果の取り纏めができる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3	
				実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3	
				実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3	
				実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3	
				実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3	
				実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3	
				実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	
				実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	
				個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	
				共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3	
専門的能力	分野別の工学実験・実習能力	建築系分野【実験・実習能力】	建築系【実験実習】	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	
				実験の目的と方法を説明できる。	4	
				建築に用いる構造材料(例えば木、コンクリート、金属など)の物理的特性を実験により明らかにすることができる。	4	
				実験結果を整理し、考察できる。	4	
				実験の目的と方法を説明できる。	4	
				構造材料(例えば木、コンクリート、金属など)によるいずれかの構造形式(ラーメン、トラスなど)の試験体を用い、载荷実験を行い、破壊形状と変形の性状を観察することができる。	4	
				実験結果を整理し、考察できる。	4	
				建築生産で利用されている測量(例えば、レベル、トランシット、トータルステーション、GPS測量など)について機器の取り扱いができる。	4	
				測量の結果を整理できる。	4	

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	60	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	60	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0